

## ◆ 2022年度 日本建築学会支部共通事業 『建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事』

### 8.2 湿潤養生

- コンクリート部分の厚さが18cm以上の部材において、早強、普通、中庸熟ポルトランドセメントを用いる場合は、湿潤養生期間の終了以前であっても(1)または(2)で得られたコンクリート強度が、計画供用期間の級が短期および標準の場合は $10\text{N/mm}^2$ 以上、長期および超長期の場合は $15\text{N/mm}^2$ 以上に達したことを確認すれば、以降の湿潤養生を打ち切ることができる。
- 混合セメントを用いる場合の湿潤養生を打ち切ることができる圧縮強度は、実験または信頼できる資料による。
- (1)JASS 5 T-603(構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度試験方法)による方法。供試体の養生温度は、現場水中養生、現場封かん養生とし、できるだけ構造体コンクリートの温度に近くなるように保持する。
- (2)その他の信頼できる構造体コンクリートの強度推定の方法とし、工事監理者の承認を受ける。たとえば、型枠内に設置した温度センサ等を用いて構造体のコンクリートの温度履歴を測定し、それに基づいて構造体のコンクリートの圧縮強度を推定する方法。ただし、湿潤状態が保持されていることが前提。

#### 8.2 湿潤養生に適用する養生剤の試験方法を整備

課題：膜養生剤には様々な種類があり、使用方法(タイミング、塗布量)、効果(水分の逸散や表層のひび割れ、中性化の抑制等)も様々で、評価ができていない。

JASS T-407:2022(コンクリート養生剤の水分逸散抑制効果試験方法)[付10参照]を制定

- ・基準モルタルの材料調合を規定
- ・一般的な環境( $20^{\circ}\text{C}$ 、60%RH)で72時間の乾燥質量
- ・養生剤ありの水分逸散量(W1)、養生剤なしに水分逸散量(W0)を測定し、水分逸散率( $W1/W0$ )で養生効果を評価

**膜養生剤による湿潤養生は不確実です。100%給水のアクアカーテンをぜひお勧めいたします。**